

支 部 だ よ り

台湾支部

佐々木宏(C平08)

台湾外語会は3月24日(金)、約1年半ぶりに支部総会を兼ねた食事会を開催し、台湾人と日本人の卒業生計15人が一堂に会しました。20代から80代という幅広い世代の集まりとなり、自己紹介の後にはおいしい料理に舌鼓を打ちながら、名刺交換や歓談などで交流を深めました。



最年長の范姜雲鶴さん(E昭20中退)は、外語大の前身である東京外事専門学校で学習された大先輩。奇しくも李登輝元総統と同じ89歳ながら、大変お元気な上、携帯電話やパソコンを自在に使いこなすデジタル派で、我々を大いに驚かせてくれました。范姜さんからは、18年住まれたカナダ・バンクーバーで一緒だったという旧友の游秀隆さん(C昭19)の訃報も伝えていただいたほか、香り高いワインの差し入れも頂戴しました。深謝いたします。

また、今回は大使館の機能を果たす交流協会台北事務所で活躍する外交官、林香織さん(C平18)や政治大大学院に留学中の名切千絵さん(F平20)も新たにメンバーに加わり、いつになく多彩な顔ぶれとなりました。今後は社会人だけでなく、留学中の在校生や卒業生にも積極的に声を掛けたいと思っています。役員も改選し、楊麗珮さん(J昭57)に支部長を続投していただくほか、副支部長に林香織さん、幹事に佐々木、副幹事に江本睦美さん(C平20)が新たに就きました。

このほかの出席者を以下にご紹介します(敬称略)。李明斌(J昭56)、李燕光(同)、王士賢

(J昭59)、余昭蓉(J平元)、笹岡敦子(C平2)、源一秀(C平3)、簡文賢(J平4)、藤林宏規(R平18)、大前誠(C平18)。

マナウス支部の発足

富所亮(Po昭61)

当地にて卒業生が6名集まり、支部を発足させました。会場は、ローマ法王も食した、アマゾン川魚料理店の老舗、Canto da Peixada。タンバキと呼ばれる大型魚のグリルや煮込みに舌鼓を打ちながら、懐かしい西ヶ原キャンパスの話題やブラジルの社会・経済の話題で大いに盛り上がった。

名誉部長は、長沼始(S昭50)在マナウス総領事、幹事長はマナウス在住11年の柴田邦弘(Po昭54)、幹事は1月に着任したばかりの富所亮(Po昭61)で発足。その他、ブラジル在住通算19年の島準(Po平06)、総領事館副領事柴田道子(I平19)、ブラジル研究会(通称ブラ研)元会長の民族舞踊研究家小笠原緑(C平20)という、多彩なメンバーが参加した。

日系企業の工場部門のみが進出しているケースが多いだけに、文系の外大OB・OGはいない筈と、参加メンバーの誰もが思っていたが、ゴルフ場でメンバー2名が、偶然、同窓であることが発覚し、そこから数珠つなぎで6名のOB・OGがいることが分かり、早速、支部の発足へと至った次第。大所帯のサンパウロ支部とも連携し、OB・OG間の情報共有を深め、ブラジルリスクの荒波を乗り越え、同国の発展と日伯間の関係強化に寄与しようと誓い合っ初会合を終えた。

OB・OGの皆様もマナウスにお越しの際は、是非声を掛けて下さい。

